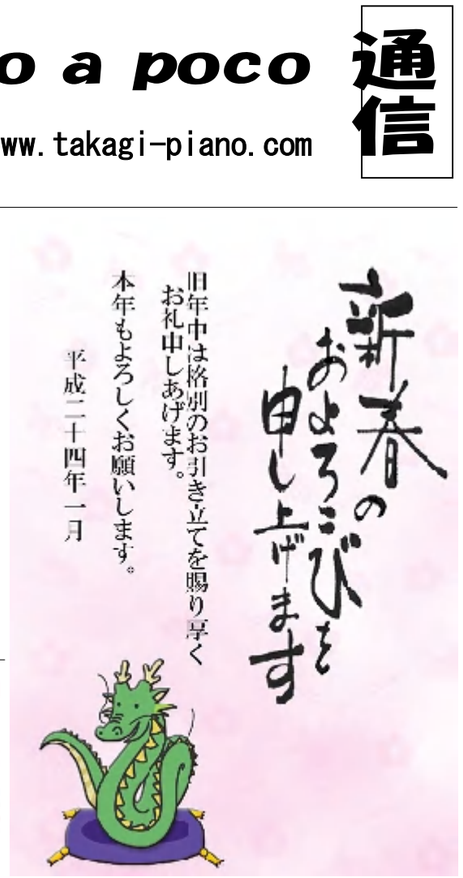
通信 poco a poco

http://www.takagi-piano.com

発行人
高木ピアノサービス
六六二-〇九六二
西宮市松下町七-四六
電話・FAX
〇七九八（三六）〇一五一



旧年中は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申しあげます。
本年もよろしくお願いします。

平成二十四年一月

おめでとうございます

「高木ピアノサービス」のお客様には、このニュースレターをもって新年のご挨拶とさせて頂きます。

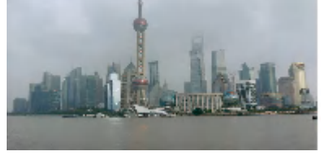
一昨年はショパンの旅でしたが、ここ数年ヨーロッパへの旅が続いたので、スタインウェイの本拠地『ニューヨークへ行こう』と暗黙の空気があったのだが、いつも一緒に行くメンバーの友人が、突然、アジアに目覚め「中国へ行こう」と言いだし、あれよあれよと言う間に中国行きが決定。当然、その友人が、面倒な手続きや旅の行程を組んでくれたのだが…。

中国へは七年前「上海メッセ」を見に行きましたが、今回、いつも一緒に行っていたメンバーの他に、カワイ時代の先輩が加わり『上海メッセを見てみたい』の一言から、今回も「上海メッセ」へ行く事になりました。

中国旅行記

10月10日
9：25　関空より中国国際航空　CA一六四便にて上海東甫空港へと向かう。昔は国際空港と言えば虹橋空港だったが、綺麗で大きな甫東国際空港へと変わっている。上海までの空路は約2時間で、あっという間に中国へと到着。空港へ着くと、お付き合いのあるピアノ屋さんで中国担当の社員が迎えに来てくれていた。この社員は中国人（以下、Oさん）だけに心強い限りだ。空港よりホテルまで約1時間タクシーに乗りホテルへと到着。泊まるホテルは海湾大飯店。上海では少しましなホテルと聞いている。チェックインも彼がやれば、実にすんなりと事が運ぶ。チェックインしてから近所のレストランへと昼食へと向かう。入ったのはホテルのすぐ近く「高老庄」と言うレストラン。外人も良く来ると言う事で味には癖がなさそう。まずは青島ビールで乾杯となる。（日本では普通だが、中国ではビールを頼んでも冷えたものは出てこないので、「冷えたビール」と言って注文する）料理の注文は、こちらの希望をOさんに伝え、あとは彼におまかせ。

豹柄のピアノにはビックリ


甫東地区　中央がテレビ塔

昼食を済ませると夜の宴会に備えて、腹ごなしに近場をぶらりと散歩する。中国と言えば、この風景。対岸にはテレビ塔がそびえたち高層ビルが建ち並ぶ。多分、中国では一番単価の高い土地だろう。夜には対岸の高層ビル達はライトアップされデイトスポットだそうだ。7年前に来た時には、この辺りを観光船に乗って遊覧するはずだったが、台風のため飛行機が飛ばず、ここの観光はキャンセルになった場所だ。1～2時間もうろうろとしただろうか、ホテルに戻って休憩をとることにした。晩ご飯は、お世話になっているピアノ屋さんの接待で高級レストランでの食事が待っている。楽しみだ。

晩ご飯は、Oさんの上司も加わり、総勢6名で2台のタクシーに乗りレストランへと向かう。上海では有名な四川料理のお店＊「梢江南」美味しい料理に紹興酒、たまりませんわ。Oさんの上司Tさんは、元調理師と言う事もあって料理には詳しく、食べた事の無いものには鋭く反応し「食べてみたい」と言いだし、おかげで、それはいっぱい色んなものを食べました。（でも説明できません）晩ご飯もお腹いっぱい食べ、夜の街も堪能してホテルへと戻る。

10月11日
本来の目的「上海メッセ」の会場へとタクシーで向かう。入場料は無料でピアノ屋としての名刺を出せば、簡単に手続きが済む。会場入り口で手続きを済ませ、中へと入る。やはり、7年前に来た時と同様、中国には活気がある。まだまだ、成長するであろうと思われる。日本で開かれている楽器市は、横浜の「みなとみらい」で開かれているが、その規模の数倍は面積もあるし出店数も多い。もちろんY社　K社は、出店している。カワイ楽器の社員に話を聞いたところ、中国でのOEM製品があり、売れているとの事だった。「中国には頑張ってもらわないと…」との内容でした。中国のピアノには、日本では考えられないものがたくさん出展されている。豹柄のピアノにピンクのピアノ、楽しいと言えば楽しいが、「こんなピアノ、家に置きたいかな？」と思う。が、中国人の感性なんだろう。その他、ドイツのブースを探し一応確認する。かつてドイツで有名だったピアノも、今ではすっかり、中身が中国製になっているものも多い。こうして今回もてんこ盛りのカタログを手にして会場をあとにした。

正午をまわったが、お昼ご飯をを食べるために旧市街へとタクシーで向かう。場所はOさんから聞いている預園の中にある小籠包のお店。タクシーは適当なところで下してもらい中に入る。ここは上海では有名な観光名所だが観光客相手の物売りが声をかけてくる。決して本物とは言わない。「偽物あるよ」「ロレックス」「ヴィトン」と声をかけてくる。スーパーコピーと言われるものがある事は知っているが、「不要」（プ・ヤオ）と言って追い払う。

お目当ての小籠包のお店は地図の中ほどにある。近くまで行くと、やたら、行列ができているお店がある。「ここか！」と思いきや、お持ち帰り専用の行列だった。お店は階段を上がった2階にある＊「南翔饅頭店」。メニューは日本語で出てきたから日本人もたくさん来るのだろう。メニューは色んな小籠包があり、野菜入り、キノコ入り、松茸鮮肉小籠（松茸入り）、海老入り、フカヒレ入り、などなど。特に有名なのが蟹黄小籠（蟹味噌入り小籠）。当然、ビールと小籠包で盛り上がったのは云うまでもない。こうして二日目も終わり、明日は＊アモイまで飛ぶ事になる。

預園商場入り口

10月12日
遅い目の朝食を済ませ、虹橋空港へとタクシーで向かう。10年以上も前に何度も降り立った空港だ。それでも当時より大きな空港へと変貌を遂げている。

11：35　中国東方航空　MU5665便に乗り、アモイから高崎空港へと向かう。高崎空港へは13：05に到着。ムッと湿気の多い亜熱帯地方特有の風が吹く。ここからは、通訳のいない4人の旅が始まるので多少の不安がある。目的地はアモイの向かいにあるピアノの島と呼ばれる「コロンス島」。ここにあるピアノ博物館とオルガン博物館を見る事にしている。

まずは空港からフェリー乗り場まで向かう事にするが、言葉が通じないのでタクシーの中で地図を見せて行き先を告げる。フェリー乗り場では乗船券を買わなくていけないのだが、片言の中国語でも話せるのは高木だけ。やっとの思いで4枚のチケットを入手した。（英語を話せる人は殆どいない）5分ほどフェリーに乗り対岸に着いた。地図で見る限りホテルは近そうなので歩く事にする。ホテルへ向かう途中、若いカップルがオシャレをしてプロのカメラマンに写真を撮られている姿を見かける。あとで分かった事だが、島には貿易などで富を得た華僑の別荘や租借地時代の旧い洋館や領事館が多く、最近は結婚写真を撮る場所でも有名らしい。

あちらこちらで聞きまわって、やっとホテルまでたどり着いた。ホテルは、島で一番高いところにあり見晴らしも良いキレイなホテル「海上花園飯店」。ホテルに入ると予約はされているものの、言葉が通じないため話が前に進まない。英語を話しているようだが、発音が何か変。結局、英語は通じなくて片言の中国語が一番通じてチェックインすることができた。こちらの中国語もひどいものだが、ホテル従業員の英語もひどいものだ。（＊普通話も通じにくいようだ）

今晩の予定は島で開かれるピアノの発表会なので、その前に島の観光を兼ねレストランを探しながら夕食を摂る事にした。有名なのはシーフードレストランで、籠や生けすに入っているカニや魚を、その場で調理をしてもらうスタイルで、すべて量り売りです。ここでは、カニ・ウツボ・エビなどを調理してもらって食べた。レストランを出て島の中心部にある演奏会場へと向かった。入場料は無料なので気軽に入る事ができるが、聴く側のマナーはもう一つで、演奏中にも関わらず携帯電話を触っている人がたくさんいた。こんな発表会や演奏会は毎晩のように開かれているそうだ、さすがにピアノの島と言われるだけの事はある。こうしてアモイの夜も更け明日に備えることにした。

赤い籠にウツボやカニが

10月13日
朝はゆっくりと遅めの朝食を摂りホテルをチェックアウトした。この日はピアノ博物館とオルガン博物館の見学を予定。あいにくの朝から雨だが入場券を買ってピアノ博物館へと入る。このピアノ博物館、個人所有のものと聞いているが、「何十台もの一流のピアノを展示するなんて、どれだけ金持ちやねん」と思わずつぶやいてしまった。この後、オルガン博物館を見学して街にある唯一のファミレスで昼食を摂りこの島を後にした。

10月14日
帰国する飛行機は夕方からだが、この日は朝から、お土産を買いに出かけることにした。甫東地区のショッピングセンターはオシャレだが日本みたいでつまらない。結局、南京路歩行街と呼ばれる繁華街でお土産を4点買ってホテルに戻った。こうして目的の行程をすべてを終了し帰国した。

＊「梢江南」
（梢＝漢字がないので当て字　ショウコウナン）
伝統的な四川料理から選りすぐったメニューを、上品な辛さにまとめあげ、現代風にアレンジした料理が特徴。材料にこだわり、ヘルシーな四川料理として地元の人だけでなく、欧米人や上海駐在の日本人にも多くのファンを持っています。

＊「南翔饅頭店」
小籠包を上海で初めて売り出した点心の店、長興樓が、1960年代に「南翔饅頭店」と改名。日本には、六本木ヒルズ店、川崎アゼリア店、大阪・心斎橋店・梅田店、福岡店がある。

＊「普通話」
中国ではたくさんの民族がいるため、たくさんの方言があり、普通話と言われる標準語がある。テレビ放送では中国語で放送されているにも関わらず地方の放送局が流れる場合は普通話の字幕が出ている。

＊アモイ「コロンス島」
世界的にはアモイと呼んでいるが、中国の普通話では「厦門」（シャーメン）と発音している。コロンス島は、現在、旧日本領事館をはじめとする20世紀初頭の建築物が多く残る地域で華僑博物館、日光岩、寂荘花園などの観光名所が数多く点在しています。また、コロンス島には二台の車もなく美しい島です。

＊2011年度「上海メッセ」27か国および一四一九人の出品者。97か国および五二一八六人の訪問者

次回「上海メッセ」
2012年10月11日～14日
「上海　ニュー　インターナショナル　エキスポセンター」

お待たせしました
グランドピアノも消音ピアノの後付けが可能になりました。

KHP-5000
HYBRID PIANO
グランドピアノ専用タイプ
￥357,000 取付費 調整費別途

グランドピアノのための新開発消音機構・鍵盤センサー、取り付け技術を採用し、いつもと同じ感覚で演奏できます。ボタンひとつで消音のオン／オフの切り替えができる。消音時でも、通常と全く変化なくピアニシモまで表現できるタッチを実現。ハイ・クオリティなサウンドの5W×2のモニター・スピーカーを付属。取り付けが容易な機構で、ほとんどの場合ピアノを移動せずに取り付けが可能。

シンプルな機能でお求め安くなったエントリーモデル

KHP-100/300
HYBRID PIANO
アップライトピアノ専用
￥92,400 取付費 調整費別途

ご自宅のアップライト・ピアノに取り付けるだけで、いつでもアコースティック・ピアノの音を消音して、ヘッドホンからのデジタル・ピアノのサウンドで演奏できる消音ピアノ・システムです。ピアノの外観を損なわない小型でシンプルなコントロール部は簡単に操作でき、高品位なグランド・ピアノ・サウンドを楽しむことができます。コルグの新技術による完全非接触センサーでピアノのタッチはそのまま、ご家族がテレビを見ている時間でも、夜間でもお好きなだけレッスンが可能です。

録音機能を搭載した上位モデルもあります、詳しくは高木ピアノサービスまでお問い合わせください。